

2025年2月23日（顕現後第7主日、C年）

牧師メッセージ

「いと高き方は、恩を知らない者にも悪人にも、情け深い」

（ルカによる福音書6: 27-38）

司祭ヨセフ太田信三

「敵を愛しなさい」というイエスの示された愛とは、神の愛であり、すべての人々を救おうとする神の意志そのものです。憎らしい人がいるとしても、その人をも神は救いたい、愛しておられます。その神の愛を肯定し、たとえ憎しみを抱く相手であっても、その相手のことを、神に愛されている存在として認めることが、私たちに求められています。

「敵を愛せ」と聞いた弟子たちはきっと、「そんなこと出来っこない」と思ったことでしょう。彼らがそのように生きられるようになるのは、イエスを裏切ってしまい、しかし、ご復活のイエスに出会い、赦されてからです。敵を愛する愛とは、私たち自身の内から出てくるものではありません。イエスの赦しに与り、その愛をいただくことで、私たちは敵をも愛することにチャレンジする力が与えられます。ですから、愛するのは私たちであるようで、それは神からのものなのです。

人は愛されたいと望んでいます。しかし、それを得るために、裏切り、欺き合い、いつの間にか愛から離れてしまいます。愛を求めて歩んでいるつもりが、気がついてみれば愛から離れている。これが人間の罪と言われるものです。イエスは十字架の上で、「父よ、彼らをお赦してください。自分のしていることを知らないのです。」と神に願い、ご自分を十字架につけた人間のために祈りました。私たちは、主イエスを十字架に付けた人々と同じように、知らぬ間に愛から離れ、神に背く存在です。それゆえ、私たちはイエスを十字架につけた人々と同じ「敵」であり、罪人です。しかし、十字架のイエスの祈りが示すように、イエスはその敵を愛し抜いてくださるのです。私たちは、私たち自身が罪人であり、イエスの敵であることを知るなら、同時にその敵のために祈ってくださるイエスの愛を知り、それどころか赦されて家族とされる、愛と赦しの命をいただきます。「いと高き方は、恩を知らない者にも悪人にも、情け深い」のです。